

氏名 梶 田 三 郎

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 甲 第 646 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和62年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 医学研究科内科系神経精神医学専攻

(学位規則第5条第1項該当)

学 位 論 文 題 目 Long-term Increase in Striatal Thyrotropin-releasing Hormone (TRH) Receptor Binding Caused by Amygdaloid Kindling
(扁桃核キンドリングにおける、線条体TRH受容体の長期持続性の増加)

論 文 審 査 委 員 教授 森 昭胤 教授 庄盛敏廉 教授 大田原俊輔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

てんかんにおける脳内TRH系の関与を検討するため、扁桃核キンドリングラットを用いて脳部位別にTRH様免疫活性(IR-TRH)とTRH結合部位の測定をキンドリング最終けいれん30分から21日後にかけて行った。IR-TRHは扁桃核/梨状葉皮質と海馬において、キンドリング最終けいれん24時間から48時間後にかけて有意に増加していた。一方、線条体のTRH結合部位にはキンドリング最終けいれん21日後まで続く長期持続性の増加が認められた。その他の脳部位では検討したいずれの時点でもIR-TRHとTRH結合部位に有意な変化は認められなかった。これらのことより、キンドリングけいれん後にみられる辺縁系脳部位におけるIR-TRHの一過性の増加はけいれん後現象に関与し、線条体におけるTRH結合部位の持続的増加がけいれん準備状態に関与している可能性が考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はラット扁桃核キンドリングに対するTRH系の関与様式を検討したものであるが、線条体におけるTRH結合部位の長期持続性増加を明らかにし、てんかんにおけるTRHの関与様式について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。